

Vol. **48**
January
2025

JDS Network News

発行元：一般財団法人日本国際協力センター(JICE)



表紙：モルディブの風景

Topics

- ◆ 活躍する帰国留学生（スリランカ）
- ◆ 活躍する帰国留学生（インドネシア）
- ◆ ほっとひと息：キルギス

JDS Network Newsでは、活躍する帰国留学生を紹介しています。今回はスリランカとインドネシアで活躍する帰国留学生をご紹介します。

JDS
×
Alumni

活躍する帰国留学生(スリランカ)



Mr. Kanda Uda Chandralal (カンダ・ウダ・チャンドラル氏)

国際大学国際関係学研究科、2013年修了、Provincial Ministry of Sports, Youth Affairs, Rural Development, Probation and Child Care, Women Affairs, Housing *次官
*以下、南部州地方省



カンダ・ウダ・チャンドラル氏

2025年1月、スリランカの帰国留学生カンダ・ウダ・チャンドラル氏が南部州地方省次官に任命されました。同氏はJDSスリランカの2期生として2011年に来日し、2013年に国際大学国際関係学研究科の修士課程を修了しました。

JDS留学後に南部州に戻ったチャンドラル氏は、南部州のProvincial Councilに2年半所属した後、土地委員会の事務局長や選挙管理委員会の副選挙管理官を経て、2022年10月に南部州次官 (Secretary to the Governor) に任命されました。

チャンドラル氏は南部州次官としての任務に加え、州を代表して、観光や農業等に関連する国際会議に出る等、州政府と他国との関係強化に貢献してきましたが、今年1月からは南部州地方省次官に任命され、さらに活躍の場を広げています。

チャンドラル氏にヒアリングしたところ、JDS留学では、公共経営・政策分析に関する専門知識を習得しただけでなく、問題解決能力などの実践的スキルを身に付けることができ、スリランカへ帰国後は留学で得た知識や経験を政策立案や実施等で活用しているそうです。また、南部州の優秀な若手公務員へJDS留学を積極的に勧めているそうで、チャンドラル氏から「今後も優秀な若手公務員には日本留学を勧め、日本留学者同士のつながりも大切にしていきたい」と伺いました。

チャンドラル氏がJDS留学で得た知識と経験を活かし、スリランカの発展にさらに貢献することが期待されています。

SINCE 1999



Where
Leaders
are made.



JDS

The Project for
Human Resource Development
Scholarship



Prof. Amzul Rifin Ph.D. (アムズル・リフィン氏)

国際大学大学院国際関係学研究科、2005年修了、駐日インドネシア大使館・教育文化班長

インドネシアJDSの一期生として2003年に国際大学に留学したアムズル氏は、2024年3月より駐日インドネシア大使館に駐在して日本政府とインドネシア政府との間の架け橋となって活躍しています。

国際大学では、インドネシアで重要な輸出品であるパームオイルの輸出税制について研究し、その後、東京大学に入学し博士号を取得しました。現在アムズルさんは、駐日インドネシア大使館で教育文化班の班長として、日本の教育機関と協力してイベントを開催したり、東京インドネシア共和国学校の運営に携わり活躍しています。

アムズル氏からJDS留学について、以下のコメントを頂きました。

JDSは政府の公務員を対象にした留学プログラムだったので、留学のとても良いチャンスだと思い日本留学を決めました。

インドネシアのJDSは2006年に終了しましたが、多くのJDS修了生がインドネシアの中央省庁で管理職になって活躍しています。JDSを含む日本政府の奨学金事業には本当に感謝しています。

私はJDS留学後、日本政府(文部科学省)の国費外国人留学生制度を利用して2007年に東京大学博士課程に進学しました。農業経済について研究し、2011年に博士号を取得することができました。日本の留学経験が無ければ現在のキャリアは築けませんでした。現在、所属しているボゴール大学から出向して在京大使館に勤務しています。業務では、日本留学の際にお世話になった先生方とも連絡を取る機会もあります。

インドネシアではもともとオーストラリアや米国などの英語圏に留学を希望する学生が多かったのですが、近年は日本のアニメの影響などで、若者の間で日本への関心が高まっており、多くの学生がインドネシアから日本へ留学しています。

教育事業などを通して、アムズル氏がインドネシアと日本との間の二国間関係の強化にさらに貢献することが期待されています。



アムズル・リフィン氏(インドネシア大使館前にて)



キルギスは中央アジアに位置する内陸国で、「中央アジアのスイス」と呼ばれ、天山山脈の雄大な景観や世界第二位の高山湖であるイシクル湖など、圧倒的な大自然が魅力です。今回は自然の美しさと多様な文化が融合したキルギスから、おすすめのおやつをご紹介します。



【白いはちみつ:Esparcette Honey】

キルギスの高原に咲く花「エスパルセット」から作られた、白いはちみつは、舌ざわりがなめらかでクセがなく、それでいてしっかりとした濃い甘みがあるため、日本でも高級食材として販売されています。写真の白はちみつは、JICAの技術協力事業、一村一品(OVOP=One Village One Product)プロジェクトを通じて開発された逸品です。

出典: JICA(特産×OVOPで世界に挑む キルギス)

【ボルソック:Boorsok】

イースト菌を使わない生地を、ひし形または丸形に揚げた伝統的な揚げ菓子です。祝祭日の食卓に前菜として熱々で提供される、ふわっとやわらかい食感の揚げパンです。素朴な味ですが、サワークリームをつけて食べると、おいしくて止まりません。キルギス人に愛されているだけでなく、外国人観光客からも好評です。



【チャクチャク:Chak-chak】

小麦粉をベースに、蜂蜜を混ぜた生地を揚げたもので、ナッツやベリー、ケシの実などをかけて頂きます。キルギス定番の郷土菓子で、家族団らんの時にお茶うけとして食べるクッキーです。練乳を混ぜるとサクサクになり、さらに美味しくなります。

JDS 3つの特徴

1

行政官限定事業

※一部例外がございます

2

6,345名 23カ国の実績

※事業終了国の人数も含む ※2024年度までの人数

3

大臣・局長級を輩出

対応国の社会・経済開発計画の立案・実施に関わる若手行政官が日本で修士号または博士号を取得しています

出身省庁…財務・経済、法務、行政、環境、インフラ、教育等

<JDS実施国(JICE)> ※受入開始年順

ウズベキスタン、ラオス、カンボジア、ベトナム、モンゴル、
バングラデシュ、ミャンマー、フィリピン、キルギス、
タジキスタン、スリランカ、東ティモール、パキスタン、ブータン、
モルディブ、ケニア、セネガル、ウクライナ

※中国は2012年、インドネシアは2006年に事業終了しました。

日本で専門知識を身に付け帰国した留学生は、
日本との政策対話に携わり二国間強化に寄与する等、
様々な場面で活躍しています。

人材育成奨学計画(JDS)は無償資金協力による
JICA留学生受入支援事業です。

編集後記

JDS Network News (JNN) をお読みいただき、ありがとうございます。

JDS留学生は2年目に入ると、11月から翌年2月までの期間にJDS事業の一環で行政官交流会や修了前研修があり、来日以来会うことがなかった留学生達が、再び東京に集まりネットワークを広げる機会となります。

来日時は、不安そうな様子の留学生が多い印象ですが、2年目には、日本での留学生活に慣れて、残り僅かの日本での滞在期間を、研究だけでなく旅行やイベント等に参加して満喫している留学生も多くなります。

2年間の留学期間は長いようで短いものです。できるだけ、日本での生活を楽しんで良い思い出を作りたいと思います。

JDS事業に関するご質問がございましたら、お気軽にメールで弊センターまでお問合せください。また、本誌へのご意見・ご感想もお待ちしております。

【お問い合わせ先】

一般財団法人日本国際協力センター (JICE)
留学生事業第一部留学生事業課広報担当
E-MAIL: jds.pr@jice.org